

2022年11月1日
日本通訳案内士団体連合会
副会長・調査部長 米原亮三

観光庁国際観光部国際観光課長
齋藤敬一郎様

2022年度全国通訳案内士試験についての意見具申について

2022年8月21日実施された全国通訳案内士1次筆記試験について、
疑問のある出題がありましたので、下記のとおり、ご意見を申し上げます

記

1 背景

2022年8月22日に開催された観光庁及び日本通訳案内士団体連合会(以下、「通団連」という)の意見交換会において、観光庁から以下の課題が提起された。

- ①全国通訳案内士の活躍の場を今後更に増やすためにどうすべきか
- ②全国通訳案内士試験の受験者数を増やすためにどうすべきか
- ③現在の全国通訳案内士試験の受験料金は適正か

通団連においては、③に関し、通訳案内士試験受験者に対するアンケート調査を実施するとともに、①、②についても、前向きな努力を行っている。

2 何故、試験問題が重要か。

全国通訳案内士試験の受験者数を増やすためにどうすべきかの課題に関し、通訳案内士試験における近年の出題傾向の考察が必要である。

近年、通訳案内士試験の受験者数の減少が著しい。その一因として、試験問題に奇問・難問が多く、何年勉強しても合格できないなどの声が多くを受験生から寄せられてきた。

とりわけ、地理や歴史に高校の教科書にもない事項が多数出題されているために、若年層の受験者に重い負担となっている。

受験生増加に不可欠な課題は、試験そのものの見直しと考える。

3 本年度の出題について

一昨年及び昨年度に比較して、難問が減少したが、今年度も難問・「外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問うという視点から妥当性に疑問のある問題」が散見されたので、代表的なものについて、地理及び歴史について、報告する。

なお、通訳案内の実務も、難しかったとの声が寄せられたが、テキストがあるので、努力した者は、必ず合格している。

また、一般常識も観光白書に関する出題は、一定の理解が得られている。

4 受験者アンケートからの寄せられた意見

(1) 試験問題について

- ・年度ごとに難易度に大きな差があるのは公平性に著しく欠けている。
- ・ガイドラインにきちんと沿った問題を作成してほしい。
- ・問題作成は一定期間の通訳案内経験者が担当すべきである。
- ・問題数が少なくなり、1問の重みが大きくなりすぎている。
- ・問題文・選択肢が長く、一方、試験時間が短い。

(2) 受験料について

- ・試験科目数に従った料金設定をしてほしい。
- ・2次のみ受験の場合の料金を設定してほしい。

(3) 合格科目の免除について

- ・免除期間を現在の1年から延長してほしい
- ・免除期間は2年を希望する方が最も多かった。次いで、3年、無期限であった。
- ・大学入試共通テストを免除要件に加えてほしい。

※免除期間については、通訳案内士各団体において、期限なしの声が圧倒的な多数であった。免除期間が1年しかないことが、通訳案内士試験の受験者数の減少、通訳案内士試験離れの大きな要因であり、早急な是正を要望する。

(4) 今後の試験（制度）について

- ・通訳ガイドの待遇面の向上をサポートしてほしい。
- ・無資格ガイドとの差別化など、有資格のメリットを増やすべきである。
- ・1次試験は年2回～3回開催してほしい。

5 日本通訳案内士団体連合会の要望

これまでの団体要望を再掲します。

2-2 試験内容の適正化

- ④ 難問や奇問を減らしてほしい。
- ⑤ 問題の適正化をはかるため、一次試験の内容をチェックする試験委員に、経験豊富な通訳案内士をバランスよく指名することにより、十分なチェック体制を確立し、一部の受験者だけに有利になる問題や、内容に偏りがある問題等の出題を回避してほしい。
- ⑥ 上記の④、⑤が困難であっても、試験後は、経験豊富な通訳案内士や学識経験者により、問題の振り返りを実施し、翌年度の問題作成に反映してほしい。
- ⑦ 1次試験の合格点数を6割にしてほしい。
- ⑧ 2次試験における「外国語訳」の問題文読み上げは、公平を期すために 録音音声を流すようにしていただきたい
- ⑨ 前各号の要望に関し、通訳案内士試験の意義や必要性、あり方などについて、政策立案者と、通訳案内士団体、旅行業者、有識者等を含んだ形での協議の場やヒアリングの場を設定してほしい。

◎全国通訳案内士試験における試験委員の選定

・国家試験として長い期間実施されており、試験問題に一定の傾向があったが、近年、問題内容が劣化し、一貫性が失われているように感じる。試験委員の選定に偏りがあることも原因の一つではないか。地方団体の参画も含め、試験委員の選定に平等性を確保してほしい。近年の問題には珍問・奇問が多く、ガイド業務との関連性が認められない。JNTO への監督・指導を含めて是正をお願いしたい。

・全国通訳案内士を目指す中で、近年の試験問題を見て、受験に対して懐疑的になるケースも目立つ。本当に外国人が知りたい内容を確実にアウトプットできるかどうかを適切に測る試験としてほしい。

5 日本地理

総論

◎ 出題地域が狭すぎる

北海道・東北・関東・中部・近畿・四国・中国・九州それぞれから計8大問の出題であり、一見バランスが取れているかのように見える。しかし、具体的な出題地域を見ると、函館市・酒田市・鎌倉市・馬籠宿といった狭い範囲から出題している大問が半数である（一方、沖縄県は多くの外国人観光旅客を集めてきたにもかかわらず、2022年度を含め3年連続で出題されていない）。これらの大問のように、狭い地域についての知識に10点以上配した大問ばかりで構成された試験が、「全国通訳案内士として必要な知識及び能力を有するかどうかを判定することを目的とする試験」（通訳案内士法第5条）として適切なものか疑問である。

外国人観光旅客が特に多数訪れている都市に注目した大問を設定すること自体は問題ない。しかし、小問レベルではもっと幅広い知識を問わなければ、「特定地域だけ詳しい受験者」「たまたまヤマが当たった受験者」を多数選抜する試験となりかねない。

◎ 選択肢の正解がきわめて無名である。

試験問題作成の基本は、あくまで正しい正解を見つけることである。誤っているものを除外して推定させる手法は、邪道ではないだろうか。

本問に限らず、正解が難しく、消去法で解く問題が多すぎる。

通訳案内士は、正しい情報を伝えるべきであり、憶測に基づく説明は、ガイドとしては、適切でない。

例、ある施設の歴史的特徴について、「江戸風」でなく、「京都風」でないから、〇〇である。こうした消去法的な発想や思考方法では、ややもすると誤った解説をおこなう可能性がある。

あくまで、正解の選択肢は、通訳案内士として知るべき事項から出題すべきと考える。

・問1の正解は①亀田半島であるが、全国的な知名度は著しく低い。実際、市販の地図帳や地理の教科書にも記載されていない。試験ガイドラインに明記されている「外国人観光旅客が多く訪れている又は外国人観光旅客の評価が高い観光資源に関連する日本地理についての主要な事柄」とは言えず、全国通訳案内士に必要な知識か疑問である。

1.

北海道函館市は道南部の（ a ）からさらに突き出た砂州上に中心市街地が立地している。函館の都市としての起源はアイヌと本州からの移入者が混住する海産物交易地にあるが、1859年の日米修好通商条約により西洋諸国と貿易をする港湾都市としても発展するようになった。現在でも b洋館や教会 など当時の面影を残す建築物が多く残っており、そのような異国情緒にあふれた景観や雰囲気が観光客を惹きつける。また、砂州の陸繋島にあたる（ c ）からの眺望はミシュラン・グリーンガイド・ジャポン改訂第6版において三つ星を獲得し、当地における重要な観光資源となっている。郊外には（ d ）もあり、函館の奥座敷と称されている。

問1 空欄 a に入る半島として正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。（4点）

① 亀田半島 ② 積丹半島 ③ 知床半島 ④ 松前半島

問2 下線部 b に関連して、函館市にある洋館もしくは教会として正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。（3点）

① 大浦天主堂 ② カトリック元町教会 ③ 旧グラバー住宅 ④ 風見鶏の館

問3 空欄 c に入る山として正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。（3点）

① 稲佐山 ② 寝姿山 ③ 函館山 ④ 摩耶山

問4 空欄 d に入る温泉として正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。（3点）

① 定山溪温泉 ② 層雲峡温泉 ③ 登別温泉 ④ 湯の川温泉

松山城自体問うべき設問があるにも関わらず、天守閣一般の問題として出している。城については、毎年のように、ある城を掲げつつも、その城についての発展がないままに、他の地域の質問について出題されている。国宝天守、現存天守閣が出題されており、こうした出題方法に疑問を感じる。

・問2の内子町の屋根付き橋は、全国的にはほとんど知られていない。私自身、香川県の出身であるが、友人たちに聞いてもほとんど知られていない。

【解答】問1 ④

【解説】江戸時代以前に建てられた「現存天守」は全国に十二箇所あり、そのうち本問の正解である彦根城・姫路城・松本城・犬山城・松江城の五つが国宝に指定されている。これは基本的知識だと言える。

誤りの選択肢の城の天守は、何れも昭和に建てられたものである。

6.

愛媛県の県庁所在地にある松山城には、a江戸時代に建てられた天守(天守閣)が現存する。また、松山は夏目漱石ゆかりの地でもあり、漱石は道後温泉本館に頻繁に通っていたことで知られる。愛媛県西部の内子町には、木蠟と和紙の生産で繁栄した白壁の商家群があり、この町並みは重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。また、内子町やその周辺部には木造の(b)が多数存在しており、田園に溶け込んで独特の風景を作り出している。隣の大洲市では、木蠟の貿易商が造った(c)が肱川の淵や河原を借景に佇んでいる。肱川では、かがり火を焚きながら行われる(d)を、観光客が屋形船に乗って眺めることができる。

問1 下線部aに関して、江戸時代に建てられた天守が現存する城郭はどれか、次の①～④から一つ選びなさい。(4点)

- ① 今治城 ② 熊本城 ③ 小倉城 ④ 彦根城 20

問2 空欄bに入る用語として正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。(4点)

- ① 自動販売機 ② バス停 ③ 彫像 ④ 屋根付き橋 21

問3 空欄cに入る用語として正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。(3点)

- ① 臥龍山荘 ② 如庵 ③ 待庵 ④ 飛雲閣 22

問4 空欄dに入る用語として正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。(3点)

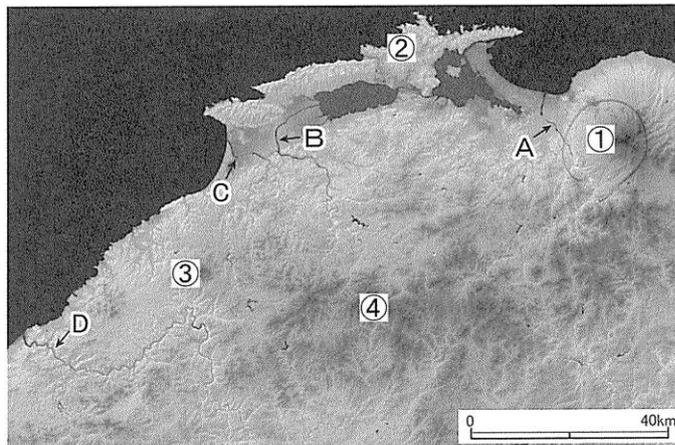
- ① 鵜飼 ② シロウオ漁 ③ 火振り漁 ④ よさこい祭り 23

◎地方的に過ぎる問題であり、全国通訳案内士に必要な知識とは考えにくい。

問題2の河川は、あまりにも地方の河川に過ぎず、観光との関連が極めて薄い河川の位置を問う非常に難しい問題であり、全国通訳案内士試験の問題として適切か疑問である。

8.

島根県と鳥取県の一部にあたる、かつての出雲国と伯耆国（ほうきのくに）は神話で彩られている。
a 国引き神話では、弓ヶ浜半島などを引き綱にみだてて、新羅をはじめとする遠方から土地を引っ張ってきて国土が作られたという。また、ヤマタノオロチ伝説では、ヤマタノオロチは砂鉄採取により氾濫するb 斐伊川を、オロチの尾から出た天叢雲剣（あめのむらくものつるぎ）は、たたら製鉄によって生まれた刀を象徴している、という意見がある。オオクニヌシによる国譲りの代償として建てられたとされる（c）をはじめ、出雲地方では旧暦10月を神在月と称して、その月には全国から神々が集まるとされる。



問1 下線部aに関して、国引き神話で引き綱をつなぎ止めた杭の一つとして登場する大山に該当するものはどれか、地図中の①～④から一つ選びなさい。(3点)

28

問2 下線部bに関して、斐伊川に該当する河川は地図中のA～Dのうちどれか、次の①～④から一つ選びなさい。(3点)

- ① A ② B ③ C ④ D

29

問3 空欄cに入る用語として正しいものはどれか、次の①～④から一つ選びなさい。(3点)

- ① 赤間神宮 ② 出雲大社 ③ 太鼓谷稲成神社 ④ 日御碕神社

30

6 日本歴史

◎組み合わせ選択形式の使い方が、やや不適切である。

各選択肢における a・b・c の項目がすべて異なっている。中学校社会科レベルの「710 年」「東大寺」のいずれか 1 項目だけ知っているも 4 点、「春日大社」を含む 3 項目すべてを知っているも 4 点、という出題であり、意図をはかりかねる。

(3) 奈良に都が置かれたのは のことで、古都奈良の文化財は、中国、朝鮮からの文化的な影響を受け、日本建築や日本美術の発展に重要な影響を与えることとなった。特に皇室宮殿の配置と現存文化財の設計は、唐の長安の建築群と都市設計の特徴をよく模している。世界遺産「古都奈良の文化財」に登録されているのは、正倉院のある などの寺社がほとんどである。その中で、 については、建築物のみならず、神域とされる山中の原始林も登録の対象となっている。

空欄 a～c に入る組み合わせとして正しいものを、次の①～④から選びなさい。(4 点)

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|------|---|------|
| ① | a | 708 年 | b | 唐招提寺 | c | 橿原神宮 |
| ② | a | 710 年 | b | 東大寺 | c | 春日大社 |
| ③ | a | 784 年 | b | 法隆寺 | c | 談山神社 |
| ④ | a | 794 年 | b | 薬師寺 | c | 大神神社 |

◎問 1、問 2 共に海外での知名度はもとより、日本人にも低い。試験ガイドラインに明記されている「外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識」とは言えないのではないか。

2018 年に、観光庁において、どのような問題が通訳案内士や旅行会社にとって必要かという調査は、おこなわれている。こうした客観的な調査を踏まえて、出題してほしい。

(4) 奈良県天理市にある石上神宮は、物部氏の氏神として古くから崇敬されてきた神社である。ここに伝来する は、百済から贈られたものといわれ国宝に指定されている。物部氏の一族から石上氏が出て、石上宅嗣は大納言に昇っている。詩文にも秀でていた石上宅嗣は、その集めた漢籍のために文庫を造り、その という文庫は、日本で最初の図書館ともいわれている。

問 1 空欄 a に入る語句として正しいものを、次の①～④から選びなさい。(4 点)

- ① 七支刀 ② 神獸鏡 ③ 須恵器 ④ 銅鐸

問 2 空欄 b に入る語句として正しいものを、次の①～④から選びなさい。(4 点)

- ① 芸亭 ② 金沢文庫 ③ 国学 ④ 綜芸種智院

◎鎖国は、重要な事項であるが、単なる暗記科目として、出題されている。

鎖国の過程を問うことは重要と思われるが、徳川将軍の名前と一致させることについては、非常に日本の試験的ではないか。全国通訳案内士に必要な知識か疑問である。

鎖国のプロセスは、ヨーロッパにおける英国のエリザベス1世による治世。ペインの無敵艦隊の敗北。新教国オランダの台頭などと無縁でない。この点について、外国人にとっても、関心の高い事柄である。また、隠れキリシタンなども重要である。

そのような幅広い視野や、識見を必要とするテーマだけに、将軍の名前あてだけに終始する問題作成は、疑問である。

(12) 江戸時代の将軍とその在任中のできごとの組み合わせとして正しいものを、次の①～④から選びなさい。

(4点)

- ① 徳川家康 — 禁教令を出しキリスト教を迫害
- ② 徳川秀忠 — オランダ商館を出島に移す
- ③ 徳川家光 — 日本人の海外渡航および帰国の禁止
- ④ 徳川家綱 — 島原の乱

18

◎配点に疑問が残る。

特定の美術作品の作者と作品名をそれぞれ個別の小問でたずねて計6点は、100点満点に対して重すぎないか。通訳案内士にとっては、建築や美術は極めて重要な分野である。「高付加価値なインバウンド観光サービスを提供するガイド育成事業」などでも、その重要性が指摘されている。

このような問いこそ、組み合わせ選択を活用して一つにまとめ、同時代の他分野の文化など幅広く問うてほしい。

(16) この作品は、 (1891～1929) が愛娘をモデルに描いた連作の一枚 で、国の重要文化財に指定されている。

写真省略

問1 空欄 a に入る作家名として正しいものを、次の①～④から選びなさい。

(3点)

- ① 黒田清輝 ② 藤島武二 ③ 安井曾太郎 ④ 岸田劉生

26

問2 空欄 b に入る作品名として正しいものを、次の①～④から選びなさい。

(3点)

- ① 「麗子微笑」 ② 「読書」 ③ 「金蓉」 ④ 「天平の面影」

27

◎問1の数値を問う問題は、外国人の関心が高いものとは思われない。

全国通訳案内士試験の問題としては難問と言えるのではないか。

(13) 江戸幕府は五街道などに関所を設け通行を監視した。特に(ア)東海道箱根関など関東の関所では江戸防衛のため(イ)「入鉄砲に出女」を厳しく取り締まった。

問1 下線部(ア)に関連して、江戸時代の東海道の各宿駅には荷物運送のために人馬が常備されていたが、その人数・疋数(頭数)として正しいものを、次の①～④から選びなさい。(3点)

① 10人・10疋 ② 25人・25疋 ③ 50人・50疋 ④ 100人・100疋 19

問2 下線部(イ)に関連して、取り締まりの対象になった「出女」とは、主にどの階層に属する女性であったか。正しいものを次の①～④から選びなさい。(4点)

① 寺社 ② 公家 ③ 旗本・御家人 ④ 大名 20

◎補足意見

- ・問題文と選択肢の関係についての練度が足りない

第1問の間3「函館山」や第8問の間3「出雲大社」のように、きわめて基本的な問題が出題されること自体は問題ない。しかし、第1問の問題文中には「函館」、第8問の問題文中には「出雲」という地名が再三頻出している。あまりにも明白であり、問題文中の情報はヒントになるどころか、「あまりに易しい。引っ掛け問題ではないか」という疑念を引き起こしかねない。第1問については問題文において重複する地名を空欄にする、第8問については出雲大社の地図中の位置を問う、など工夫の余地があったのではないだろうか。

- ・地理や歴史においては、「偏差値53」あるいは「上位4割」にすることで安定した合格者を輩出することを提案します。もちろん毎年の合格点は発表してもらいます。

- ・「難問や奇問を排すること」は、出題者自身にその自覚がないため、「訪日客の関心事以外は原則出題しない」に変えることを提案します。

さらには出題後は、問題文をHP上で掲載し、出題意図（なぜこの問題を出題したか、その項目を受験者が知るべき理由）を明確にすることを提案します。

これにより、例えば出雲のたたら問題は、「訪日客の間でとくに有名な宮崎駿監督の『もののけ姫』にその場面がでるため。」、

岸田劉生問題は「同時代のヨーロッパの潮流を日本風に解釈したため」

七支刀問題は「古代における倭国と朝鮮半島における交流を物語、韓国の教科書にも掲載されているため」などの出題意図があれば、受験者も納得するだろうとおもわれます。

- ・一般常識においては、かつて頻出だった訪日客が関心を持ちそうな日本文化、例えば日本人論、伝統芸能、伝統工芸、サブカルチャー、アルコールを含む食文化などの出題比率が、昨今極めて低い。このようなものこそ出題されるべきです。

- ・外国語の「翻訳」を選ぶ問題は、以前のように受験者に自力で翻訳させるべきです。現場では他人の訳を講評するような機会は皆無なうえ、そもそもこれによって本人の翻訳能力が測定できるという証明がなされていないからです。

いずれにしても原則は「ガイドライン」の「試験方法」にある次の項目を遵守することです。

「日本地理、日本歴史及び一般常識についての筆記試験は、外国人観光旅客が多く訪れている又は外国人観光旅客の評価が高い観光資源に関連する地理、歴史並びに産業、経済、政治及び文化についての主要な事柄（日本と世界との関わりを含む。）のうち、外国人観光旅客の関心の強いものについての基礎的な知識を問うものとする。」